

平成23年度第2回徳島県動物由来感染症対策検討会概要

講義

「コリネバクテリウム・ウルセランス」の最新知見について

国立感染症研究所 細菌第二部 山本明彦 主任研究官

議題

(1) 平成23年度第1回検討概要について

(2) 動物由来感染症モニタリング・サーベイランスについて

①猫のコリネバクテリウム・ウルセランスの追跡調査のモニタリング結果について

- ・徳島県内における猫のコリネバクテリウムの保菌率は5.6%
- ・分離した菌株はすべてジフテリア毒素を産生する株
- ・菌が分離された猫の6匹中5匹は無症状
- ・保菌猫では、血中抗毒素価の上昇が認められ、また菌分離陰性の猫でも血中抗毒素価の上昇が認められるものがあった
- ・保菌猫の生息地に偏りは認められなかった

②日本脳炎のまん延状況調査とインフルエンザの流行予測について

- ・次回、生データの提出により検討

③鳥インフルエンザのモニタリングについて

- ・定点調査の調査項目は、臨床検査、ウィルス分離と血清抗体検査で、平成23年度は600検体を実施し、全例陰性
- ・強化モニタリングは臨床検査と血清抗体検査を実施し、平成23年度は450検体で、全て陰性

④ウエストナイルウィルスのサーベイランスについて

- ・平成23年度の実績は、蚊の発生時期に合わせて6月から10月の間に計61検体採取し、全例陰性
- ・野鳥については疑わしい回収事例がなく、平成23年度の検査実績なし
- ・農林水産省のウエストナイルウィルス感染症防疫マニュアルに基づき全国一律で取り組んでいたが、農水省でウィルス検討会が行われ、この防疫マニュアルの見直しがなされ、これまで平成15年から取り組んでいたサーベイランスの結果が全て陰性であること、国内での発生がないこと、また海外の発生も一時減少しているという状況を踏まえ、このサーベイランスの体制は取りやめるということで方向性が出された

⑤死亡野鳥の鳥インフルエンザ検査実施状況について

- ・死亡野鳥の検査2検体とも陰性

⑥シカ・イノシシ肉のE型肝炎ウィルスモニタリング検査結果について

⑦徳島県狂犬病対応マニュアルの見直し案について

- ・「初発時の封じ込め作業について」「まん延防止対策について」「清浄化に向けた対応について」、見直しを検討中。

(3) 平成24年度事業計画について

(4) その他